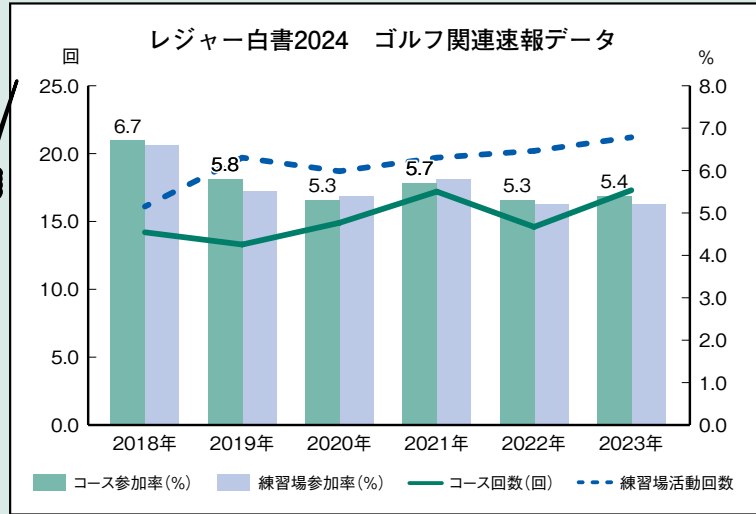


# ゴルファーは余暇活動・消費に積極的



公益財団法人・日本生産性本部（東京都千代田区）の余暇創研が7月22日に「レジャー白書2024」（今年秋発行予定）の速報版を公表した。

新型コロナウイルスの5類移行などで、人との交流や移動活動が戻り、余暇活動にどのような変化があったのか、今後のゴルフ産業の予測を立てる意味でも参考になるデータとなっている。

種目毎の参加人数、市場の動向や規模は秋口に発表する予定で、速報版では気になるゴルフ人口の発表はないが、ゴルフ場利用者数がコロナ禍を契機に高止まりしている状況を反映しているように、レジャー白書の調査でも堅調な結果が出ている。

**余暇参加率トップは2年連続国内旅行。ゴルフ参加率5.4%**

今回発表された「レジャー白書2024」（今年秋発行予定）の速報版は2024年2月に全国15〜79歳の男女を対象に2023年の余暇活動実態について

インターネット調査（有効回収数3303人）で行ったもの。

ポイント①【仕事より余暇を重視する割合が年々増加傾向】。2009年より余暇重視が拡大し、23年は計65.7%が仕事より余暇を重視。余暇時間のゆとり感指数は2018年までマイナスであったが、コロナ禍では大きく上昇。22年以降に徐々に低下したがプラスを維持し、23年は3.1となり、前年よりわずかに上昇するなど少しゆとりがある。余暇支出のゆとり感指数は2020年に大きく低下。21年以降は段階的に回復し、23年はプラスに転じ5.5となった。

②【余暇活動参加率では「国内観光旅行」が2年連続1位】。余暇活動の参加率は「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が、前年（2022年）から約6ポイント増やして48.7%となり、2年連続の1位となった。しかし、コロナ禍前の2019年の水準（54.3%）よりは低い。

余暇活動の参加人口上位種目 (2019年～2023年)

順位	2019	参加率	2020	参加率	2021	参加率	2022	参加率	2023	参加率
1	国内観光旅行 (避暑、避寒、温泉など)	54.3	動画鑑賞 (レンタル、配信含む)	39.4	読書 (仕事、勉強などを除く娯楽としての)	37.6	国内観光旅行 (避暑、避寒、温泉など)	42.8	国内観光旅行 (避暑、避寒、温泉など)	48.7
2	外食 (日常的なものは除く)	43.7	読書 (仕事、勉強などを除く娯楽としての)	36.9	動画鑑賞 (レンタル、配信含む)	37.4	動画鑑賞 (レンタル、配信含む)	38.4	外食 (日常的なものは除く)	39.2
3	読書 (仕事、勉強などを除く娯楽としての)	41.3	音楽鑑賞 (配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	34.5	音楽鑑賞 (配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	34.7	読書 (仕事、勉強などを除く娯楽としての)	36.6	動画鑑賞 (レンタル、配信含む)	37.0
4	ドライブ	39.8	国内観光旅行 (避暑、避寒、温泉など)	34.3	外食 (日常的なものは除く)	33.4	外食 (日常的なものは除く)	35.8	読書 (仕事、勉強などを除く娯楽としての)	36.3
5	映画 (テレビは除く)	37.6	ドライブ	33.8	ウォーキング	32.9	ドライブ	34.6	音楽鑑賞 (配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	34.5
6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	35.7	外食 (日常的なものは除く)	33.7	国内観光旅行 (避暑、避寒、温泉など)	32.8	音楽鑑賞 (配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	34.2	ドライブ	32.7

公益財団法人・日本生産性本部 余暇創研 「レジャー白書2024」(速報版)より

③各種目の希望率と参加率の差を「潜在需要」として算出したところ、1位が「海外旅行」、2位が「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」と、ともに2年連続で1位2位となった。ただし、「海外旅行」は前年より3・6P、「国内観光旅行」は前年より8・3P低下した。いずれも前年より参加率が上昇し潜在需要が低下したもののだが、これは潜在需要が実現した証でもあると解説している。

④一人当たりの平均参加種目数は10・4種目で、コロナ禍の2020年(9・9種目)、21年(9・7種目)、22年(10・1種目)より微増したものの、19年(12・3種目)よりは低い。

以上のように、コ

「レジャー白書2024」速報データ

調査対象年		2019	2020	2021	2022	2023	2024	増減	率
レジャー白書タイトル年		2020	2021	2022	2023	2024			
コース	市場規模 (億円)	8,820	7,180	8,340	9,050				
	参加人口 (万人)	580	520	560	510				
	(対前年)	-13.4%	-10.3%	7.7%	-8.9%				
	コース参加率 (%)	5.8	5.3	5.7	5.3	5.4	0.1	1.9%	
	コース参加希望率 (%)	7.3	8.0	7.3	7.3	6.7	▲0.6	-8.2%	
	プレー回数 (回)	13.3	14.9	17.2	14.6	17.3	2.7	18.5%	
	年費用 (千円)	143.6	151.5	135.8	183.2	164.6	▲18.6	-10.2%	
1回当たり費用 (円)	10,797	10,168	7,895	12,548	9,514				
練習場	市場規模 (億円)	1,250	1,300	1,430	1,240				
	人口 (万人)	550	530	570	500				
	参加率 (%)	5.5	5.4	5.8	5.2	5.2	0.0	0.0%	
	練習場参加希望率 (%)	6.4	7.4	6.7	7.0	6.0	▲1.0	-14.3%	
	年間活動回数 (回)	19.7	18.7	19.7	20.2	21.2	1.0	5.0%	
	年費用 (千円)	22.7	29.0	27.6	27.8	26.3	▲1.5	-5.4%	
1回当たり費用 (円)	1,152	1,551	1,401	1,376	1,241				

公益財団法人・日本生産性本部 余暇創研 「レジャー白書2024」(速報版)より。1回当たり費用は本紙で算出

ロナが5類移行したことに伴い余暇活動は参加率が増え、参加種目も増えたが、「コロナ前まで戻っていないのはコロナに対する不安感が高齢者に残っている、働き方の多様化やワークライフバランスが少しずつ変わってきていることが要因」と解説している。

注目されるゴルフ関連では、ゴルフ(コース)参加率は5・4%で前年の5・3%より0・1Pアップし、2年振りの上昇となった。ゴルフ人口は秋口に発表されるが22年の510万人を少し上回る見込みだ。今回、注目されるのはプレー回数が年間17・3回で21年の17・2回を上回り過去最多となったこと。ゴルフ場利用者が堅調に推移しているのは、これら強いプレーニーズに支えられているとみられる。一方、ゴルフ練習場の参加率は5・2%で前年と同じだったが、人口は若干減少となる見込みだ。

**ゴルフプレーの市場規模は余暇108種目中4位?**

ゴルフ(コース)はレジャー白書が調査した108種目でどの位置にいいのか、確認したい。23年の参加率ではゴルフ(コース)が5・4%(前年度5・3%)、ゴルフ練習場5・2%(5・2%)で、国内観光旅行の48・7%(42・8%)など余

暇108種目中のベスト10には入らない。

年間平均活動回数はゴルフ(コース)が17・3回(14・6回)、ゴルフ練習場21・2回(20・2回)で、1位のトレーニング59・4回(58・6回)には及ばずベスト10には入らない。

ただし、年間平均費用はゴルフ(コース)が16・46万円(18・32万円)で、1位の海外旅行35・82万円(30・12万円)に次ぎ、3位の国内観光旅行13・33万円(10・35万円)、4位の乗馬13・28万円(11・36万円)を上回った。

本誌で1回当たりの費用を算出すると、ゴルフ(コース)は9514円(1万2548円)と前年を大きく下回ったが、海外旅行12万3517円(13万957円)、国内観光旅行3万2512円(2万6538円)、遊園地・テーマパーク1万1800円(8813円)に次ぐ4位となっている。

しかもゴルフ(コース)は、これら高額支出の余暇活動3種

目より年間回数が多く、余暇支出額に基づく市場規模を本誌で算出すると、国内観光旅行6・3兆円、外食2・3兆円、海外旅行1・9兆円に次ぐ、4位の0・9兆円相当となっている。5位はパチンコ0・7兆円、以下ほぼ同規模で6位遊園地・テーマパーク、7位ドライブとなり、ゴルフ(コース)の市場規模はスポーツ種目では断トツのトップであり、コロナ後も余暇市場で存在感を示している。

余暇種目をコロナ前の2019年と比べると、対人関係に伴わない一人のできるジョギングや体操、動画鑑賞などがコロナ禍でも強く、コロナの5類移行など人流の復活、水際対策の緩和などで外食、国内旅行、それに海外旅行が23年は前年より回復した。参加希望率が減っている種目はトレンドの変化もあるが、参加率が回復して、希望を叶えた分も反映しているとみられる。

前出のように、ゴルフ(コース)の1回当たり費用は23年が

9514円で22年より24・2%減少したことになるが、年間平均回数が過去最多となったように高齢のゴルファーが戻ってきた結果とも捉えられる。ゴルフはコロナ禍でも三密を避けられるとして若者、女性にも人気を博した。一方で40〜50代のミドル層や高齢者はコロナへの警戒感からゴルフの回数が減少した傾向もあった。それが自然の中でプレーを楽しむ解放感があり、健康志向のスポーツ性、それに旅行やドライブ、食事の楽しみも伴うことからポストコロナでゴルフから離れた人が戻り、ゴルフ熱中派の割合が増えたことで年間回数が過去最多級になったものと考えられる。

まだ円安で海外旅行がコロナ前まで戻っていないこともあるが、団塊の世代が後期高齢者入りする2025年問題もあり、今後は高額消費やリピーター化を維持できる魅力の維持・創出、新規ゴルファーの獲得等がゴルフ産業界に求められそうだ。

## NGK調査の最新ゴルフ場利用者動向

一般社団法人・日本ゴルフ場経営者協会(NGK、東京都千代田)は、ゴルフ場利用税に基づく各都道府県のゴルフ場利用者数を毎月調査、公表しており、2023年度(3〜2月度)の速報値は前年度比147万人、1・6%減少の8982万人。コロナ禍前の2019年度より385万1千人、4・5%増加した。19年度からの増加分は、70歳未満が166万4千人、2・5%増、主に70歳以上の非課税利用者数が218万6千人、11・3%増となっている。

24年3月は、ゴルフ場利用者が5・3%減少し、非課税者比率は24・1%(前年同月比2・1P減)と、非課税者の利用動向が懸念された。もつとも翌4月は利用者数が0・6%減だったものの非課税者比率は25・5%(前年同月比0・3P増)となり、非課税者の利用が増える流れに戻っている。

「レジャー白書2024」速報 主な種目別

種目	参加率				年間平均活動回数				年間平均費用(千円)				希望率		
	19年	22年	23年	増減	19年	22年	23年	増減	19年	22年	23年	増減	22年	23年	増減
スポーツ部門															
ジョギング・マラソン	20.6	18.5	17.8	▲0.7	36.1	38.5	41.0	6.5%	13.2	12.2	13.3	9.0%	21.2	20.0	▲1.2
体操	21.6	21.4	19.8	▲1.6	54.7	57.3	57.9	1.0%	8.3	6.1	6.3	3.3%	18.8	18.2	▲0.6
トレーニング	17.1	16.2	15.7	▲0.5	52.1	58.6	59.4	1.4%	31.5	26.6	23.5	-11.7%	18.8	17.7	▲1.1
エアロビクス、ジャズダンス	3.8	2.6	3.1	0.5	38.2	44.3	47.1	6.3%	45.0	42.5	66.7	56.9%	4.8	5.2	0.4
卓球	6.8	5.1	5.5	0.4	12.5	14.4	16.4	13.9%	9.8	15.0	9.7	-35.3%	5.6	5.9	0.3
バドミントン	6.4	5.4	5.3	▲0.1	12.5	11.8	16.1	36.4%	4.2	9.4	7.5	-20.2%	5.8	6.5	0.7
サイクリング、サイクルスポーツ	7.7	5.5	6.0	0.5	29.9	32.8	37.0	12.8%	21.5	20.6	24.6	19.4%	7.2	7.2	0.0
ボウリング	9.3	5.0	5.8	0.8	6.4	7.0	9.1	30.0%	13.8	15.5	16.7	7.7%	6.3	6.7	0.4
水泳	9.2	4.8	5.5	0.7	21.7	29.1	30.0	3.1%	25.7	30.8	31.8	3.2%	10.0	9.5	▲0.5
ゴルフ(コース)	5.8	5.3	5.4	0.1	13.3	14.6	17.3	18.5%	143.6	183.2	164.6	-10.2%	7.3	6.7	▲0.6
ゴルフ(練習場)	5.5	5.2	5.2	0.0	19.7	20.2	21.2	5.0%	22.7	27.8	26.3	-5.4%	7.0	6.0	▲1.0
テニス	4.8	3.8	3.4	▲0.4	23.8	36.9	35.5	-3.8%	36.2	59.7	46.6	-21.9%	6.6	5.8	▲0.8
乗馬	0.5	0.6	0.7	0.1	—	12.5	24.4	95.2%	—	113.6	132.8	16.9%	4.1	3.8	▲0.3
スキー	3.5	3.2	2.9	▲0.3	3.9	4.5	10.5	133.3%	44.6	51.2	91.9	79.5%	6.5	6.0	▲0.5
釣り	6.7	5.4	5.2	▲0.2	9.8	11.9	10.2	-14.3%	37.6	55.0	44.6	-18.9%	9.0	8.5	▲0.5
サーフィン、ウインドサーフィン	0.6	0.4	0.5	0.1	—	20.9	18.4	-12.0%	—	123.7	44.6	-63.9%	1.7	1.5	▲0.2
趣味・創作部門															
動画鑑賞(レンタル、配信含む)	35.3	38.4	37.0	▲1.4	45.2	54.5	58.4	7.2%	7.6	10.6	11.0	3.8%	26.3	26.1	▲0.2
園芸、庭いじり	25.1	23.6	21.7	▲1.9	40.2	38.9	38.8	-0.3%	14.8	14.7	14.4	-2.0%	23.7	21.3	▲2.4
映画(テレビは除く)	37.6	30.7	32.1	1.4	8.6	10.8	11.4	5.6%	7.8	7.3	7.6	4.1%	32.5	31.6	▲0.9
音楽鑑賞(配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	35.6	34.2	34.5	0.3	62.6	65.2	65.4	0.3%	10.0	12.3	12.8	4.1%	29.3	30.1	0.8
おどり(日舞など)	0.5	0.3	0.6	0.3	—	30.3	23.3	-23.1%	—	145.3	61.8	-57.5%	0.8	0.8	0.0
学習・調べもの	16.1	16.2	16.2	0.0	57.3	59.1	59.0	-0.2%	23.5	23.8	25.2	5.9%	15.3	14.7	▲0.6
娯楽部門															
カラオケ	29.9	17.2	20.2	3.0	7.2	7.1	8.1	14.1%	12.6	11.9	15.3	28.6%	21.7	21.2	▲0.5
麻雀	5.1	5.2	4.8	▲0.4	11.6	23.2	18.7	-19.4%	7.3	11.0	8.8	-20.0%	8.6	7.3	▲1.3
パチンコ	8.9	8.1	6.8	▲1.3	31.7	31.9	31.2	-2.2%	103.4	88.4	109.0	23.3%	5.7	5.2	▲0.5
宝くじ	26.5	19.4	18.9	▲0.5	12.3	13.8	13.2	-4.3%	21.8	22.2	23.6	6.3%	18.2	18.8	0.6
中央競馬	8.3	8.2	7.7	▲0.5	24.8	31.6	27.7	-12.3%	54.1	85.4	75.3	-11.8%	9.6	8.2	▲1.4
外食(日常的なものは除く)	43.7	35.8	39.2	3.4	17.2	16.0	18.0	12.5%	57.0	55.4	60.7	9.6%	36.0	36.4	0.4
バー、スナック、パブ、飲み屋	18.0	10.3	11.0	0.7	11.5	10.8	11.3	4.6%	54.7	55.2	54.1	-2.0%	11.0	9.6	▲1.4
サウナ	9.3	8.6	8.4	▲0.2	15.2	14.7	14.7	0.0%	9.9	12.3	13.3	8.1%	12.9	11.1	▲1.8
観光・行楽部門															
遊園地、テーマパーク	19.1	16.3	20.1	3.8	3.1	3.2	3.0	-6.3%	23.3	28.2	35.4	25.5%	34.6	32.4	▲2.2
ドライブ	39.8	34.6	32.7	▲1.9	10.9	13.2	12.8	-3.0%	21.2	20.8	21.3	2.4%	37.2	32.5	▲4.7
動物園、植物園、水族館、博物館	33.5	23.7	25.7	2.0	3.4	3.5	3.6	2.9%	10.5	10.1	12.4	22.8%	40.3	36.7	▲3.6
国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	54.3	42.8	48.7	5.9	3.9	3.9	4.1	5.1%	109.4	103.5	133.3	28.8%	67.5	65.1	▲2.4
海外旅行	11.5	1.8	5.3	3.5	2.1	2.3	2.9	26.1%	318.5	301.2	358.2	18.9%	26.9	26.8	▲0.1

「レジャー白書2024」速報発表資料から主な種目(前年比参加率増加や年間平均費用上位等)をピックアップ